

## ヴィブラム社について

創始者であるヴィターレ・ブラマーニ(VITALE BRAMANI)はイタリアの登山家でした。

1935年、悪天候での登山で多くの仲間を失うも、彼自身は奇跡的に生還。

この悲劇的な経験から、登山・アウトドア用品を扱う店を経営していた彼は、革と釘でできた従来の登山靴のソールを、耐久性・グリップ性に優れ、過酷な状況に耐えうるタイヤの素材(ゴム)をソールにすることを思いつきます。

これがヴィブラムソールの始まりです。

そして友人達の登山靴を張り替えるとその性能を絶賛され、終戦後には最初の工場をイタリア北部ガッラーテに設立、今もなお本社のあるアルピッツァーテ(ヴァレーゼ)に設立しました。

技術が進歩すると、彼は靴底に黄色のブランドを刻みました。

当時ソールのような部材に対しロゴを刻むことは異例であり、このアイデアが彼のマーケティング能力を物語っています。



1954年7月31日、イタリアの登山隊はK2の初登頂を成功させます。

登山靴にはヴィブラムソールが搭載されており、エベレストに次ぐ標高差のK2、北壁は世界で最も困難とされているこの登攀の快挙をきっかけにヴィブラムソールは発展します。

その後も靴底メーカーとして配合の開発、金型の設計、デザイン、製造、販売を続け現在では年間4000万足を生産、年間200点以上の新商品を開発し、世界120ヶ国へ輸出。

取引先は1000社を超え、世界市場を持つ有名ブランドへ多くの商品を提供しています。

様々なフィールドで最高のパフォーマンスを発揮し、80年余り経た今でも世界最高峰の山に挑む登山家の足元を支えています。



イタリア発信のデザイン性の高さも評価され、ビジネス、ファッション市場、コンフォートシューズ、作業性と仕上がりの精度の高さが定評の修理用アイテムなど商品開発は多岐にわたり、過酷な環境に耐える登山靴用ソールから発展した技術やノウハウを活かし、革新と躍進を続けています。信用と実績の結晶であるイエローロゴは、世界でもっとも有名なソールメーカーのトレードマークです。



ヴィブラム ジャパン株式会社